

# ネイチャーウォッチングだより

令和4年9月28日(水)

愛知教育文化振興会

協力:岡崎女子大学・短期大学

9月25日(日)、田原市の緑が浜公園バーベキュー広場周辺を会場に、Aグループ第2回ネイチャーウォッチング「干潟の鳥ウォッチング」を開催しました。ツクツクボウシが鳴く強い日差しの中、24家族81名の親子の皆さんが、バードウォッチングと干潟の生き物観察を楽しみました。

会場の前には、浅い海が広がっています。この海は、流れ込む汐川の名前をとって「汐川干潟」と呼ばれ、満潮のときは全面が海、干潮になると広大な干潟が現れます。干潟は、主に入り江や内湾のように潮の流れが穏やかな海にできます。三河湾は、知多半島と渥美半島に囲まれているため穏やかで、田

原市や豊橋市だけでなく、蒲郡市や西尾市などにも多くの干潟が発達しています。今回の講師、日本野鳥の会会員で元岡崎女子大学教授の宇都宮森和先生によると、この干潟は以前、現在の8倍くらいの面積があったというから驚きです。しかし、昭和以降埋め立てが進み、干潟はずいぶん減ってしまったそうです。



親子で野鳥観察をする様子

宇都宮先生からは、クイズ形式

で汐川干潟に野鳥が集まってくる理由や、幼鳥と成鳥で姿が変わる野鳥、夏と冬で姿が変わる野鳥、オスとメスで姿が違う野鳥などについてのお話もありました。クイズに答える子どもたちの眼差しは真剣で、自然観察への関心の高さを感じました。



宇都宮先生の説明を聞く参加者の皆さん

続いて、双眼鏡やフィールドスコープ(地上望遠鏡)で干潟の鳥を観察しました。汐川干潟は広大で、野鳥の種類も豊富です。白いダイサギやアオサギをはじめ、真黒なカワウの群れを観察することができました。また、竹の穂の先にとまっている鷹のミサゴや、上空を飛ぶトビも見られました。

観察会の後半は、干潟の生き物調べです。宇都宮先生からは、「貝やカニ、ヤドカリなど、汐川干潟にすむ代表的な12種類の生き物を見つける」と



干潟の生き物を観察する様子

いう課題が出されました。砂と泥の干潟に下りて観察を開始すると、アサリやオキシジミなどの貝やイ

ソギンチャク、ゴカイなどが次々に見つかりました。12種類をすべて観察した子もいました。エビを見つけた子もいて、周囲の注目を集めました。

今回のイベントを通して、干潟の自然の豊かさや生き物同士の関わりを実感できたなら幸いです。

最後に参加者からの声の一部を紹介します。



「干潟の鳥ウォッチング」に参加された皆さん

台風が来ていたので心配していましたが、お天気に恵まれ野鳥観察日和で子どもも大喜びでした。元々野鳥にはそれ程興味のなかった息子ですが、今日のために本で予習をしたこともあって、野鳥に興味湧いたようです。貴重な体験をありがとうございました。(親)

たくさんの干潟の鳥を観察できたし、干潟でカニやイソギンチャクなどを初めて見つけることができ、とても楽しかったです。(子)

干潟での生き物探しが楽しかったです。(子)

お天気に恵まれ、貴重な体験が出来て良かったです。干潟で、とても小さなカニを見つけた時は、感激しました。(親)